

境に大豆・小豆など植え、少々たりにも仕るべき事

一朝起をいたし朝草を刈、昼は田畑耕作に

かかり、晩には縄をない、俵をあみ、何にても

ときどきの仕事、油断なく仕るべき事

一酒茶を買いのみ申す間敷候、妻子同然の事

一里方は屋敷の廻りに竹木を植え、下葉なりとも

取り、薪を買い候わぬように仕るべき事

★油断（ゆだん…手抜き、注意を怠ること）

里方（さとかた…平野部の地域、平坦地）

一萬種物、秋初に念を入扱候て、能種を置申す

べく候、あしき種を蒔候えば、作毛あしく候事

一正月十一日前に毎年鋤のさきをかけ、鎌をも

打なおし、能きれ候ように仕るべし、悪き鋤

にては田畑おこし候に果敢ゆき候わず、

かまもきれかね候えば、同然の事

一百姓は肥灰調置候義、専一に候間、雪隠広く

★鋤のさきをかけ（先掛け…摩耗した鋤の先端に新たに刃がねを付け直し修理すること）

果敢（はか…はかどる、仕事の進み具合）

専一（せんいつ…一つのことに関心すること、第一、随一）

雪隠（せつちん…便所・厠）